

コハクチョウの亜種間交雑個体に現れたくちばしの模様

村瀬美江

〒024 北上市常盤台 2-2-17

アメリカコハクチョウ *Cygnus columbianus columbianus* は、おもにカナダやアラスカ北部で繁殖し、アメリカの東岸や西岸で越冬する亜種であり (Madge & Burn 1988), ユーラシア大陸北部で繁殖し、日本などの東アジアやヨーロッパ西岸などで越冬するコハクチョウ *C. c. bewickii* とは別亜種に分類されている (Howard & Moore 1984).

コハクチョウの成鳥のくちばしは、先端部が黒く、目の前に黄色い部分が広がっている。この黄色い部分の形状は個体によって違っており、成鳥ではほとんど変化しないので、個体識別の主要要素の1つとされている。Evans (1977) は、コハクチョウをくちばしの模様によって額の部分が黒い Darky, 黒い部分のない Yellowneb, 黄色い部分が丸くある Penyface の3つに区分した。この区分はヨーロッパのコハクチョウ *C. c. bewickii* とアジアのコハクチョウ *C. c. jankowskii* とが同一亜種であるといわれてからは (Evans & Kear 1978), あまり有用な区分ではなくなった。

アメリカコハクチョウとコハクチョウの分類については、Evans & Sladen (1980) が300羽のアメリカコハクチョウと104羽のコハクチョウのくちばしの黄色い部分の割合を解析して、アメリカコハクチョウは黄色い部分が0~16%であり、コハクチョウは22%以上であることを示し、両亜種を識別する上で有力な手掛かりとなることを示した。

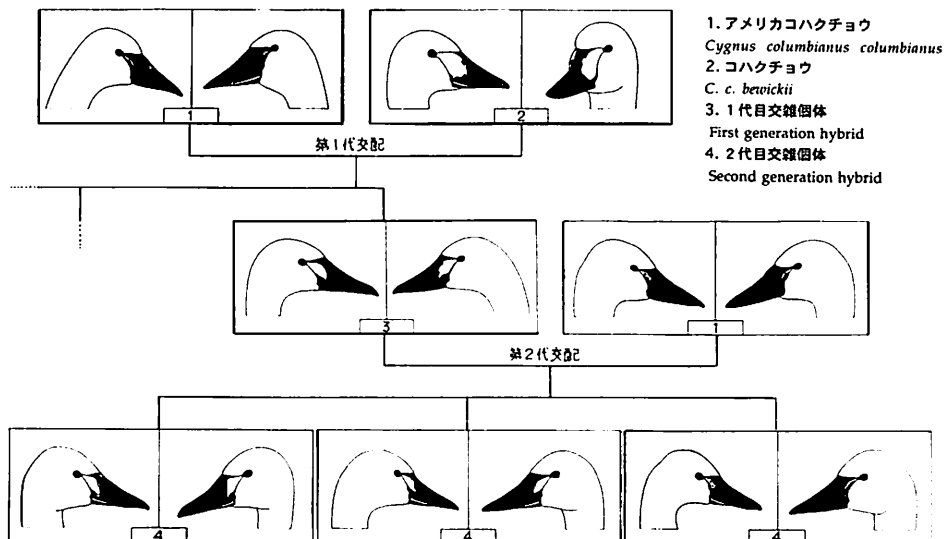


図1. 親と子の嘴峰模様

Fig. 1. Bill patterns of each individual swans.

1994年12月12日受理

キーワード：亜種間交雑, アメリカコハクチョウ, くちばしの模様, コハクチョウ

近年、日本各地でアメリカコハクチョウとコハクチョウとのつがいが報告され（松井・八木 1988）、このほかに北海道で2件、青森県で1件、岩手県で3件、福島県で2件、鳥取県で1件が報告あるいは新聞報道されている。

岩手県北上市には、1985年末の越冬期から、アメリカコハクチョウがコハクチョウとつがいになり連続して渡来している（Mikami 1989, 村瀬 1990, 1991, 1992, 1993）。また、このつがいの子供である亜種間交雑個体のくちばし模様については、村瀬正夫（1990）が報告している。本報では、アメリカコハクチョウとコハクチョウの2代目交雑個体のくちばし模様について報告する。

図1 上段にみられるように雄のアメリカコハクチョウと雌の Darky 型のコハクチョウが亜種間交雑をし、中段の1例にみられるような1代目交雑個体をつれて渡来した。1代目交雑個体のくちばしの黄色い部分は、親のアメリカコハクチョウよりは大きく、コハクチョウよりは小さかった。この1代目交雑個体は Evans & Sladen によるアメリカコハクチョウとコハクチョウの分類方法では、す

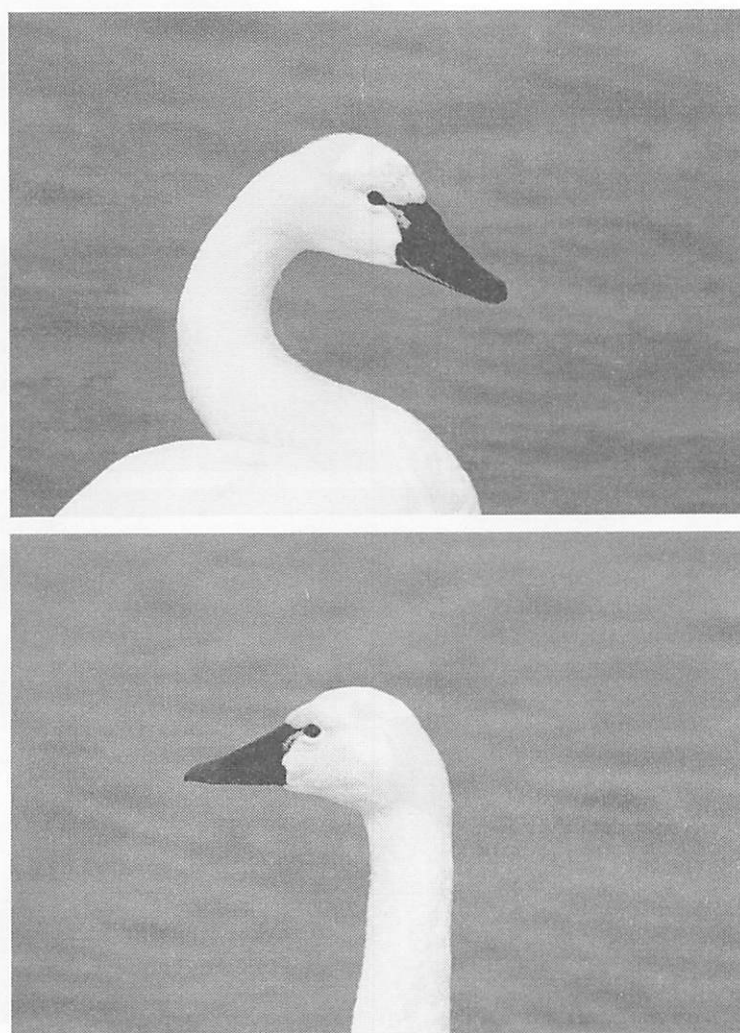


図2. 雌親のアメリカコハクチョウの嘴峰模様

Fig. 2. The bill pattern of female Whistling Swan.

べてアメリカコハクチョウに分類される。

図1中段に示したように、1代目交雑個体の1羽がアメリカコハクチョウの雌とつがいとなり、図1下段に示したような3羽の2代目交雑個体をつれて渡来した。そのうちの1羽は雌親のアメリカコハクチョウのくちばしの模様と左右ともに極めて酷似していた(図2, 3)。このように、亜種間交雑個体が親鳥と酷似したくちばし模様を持つことは今までに観察されていない。この他の2代目交雑個体のくちばしの模様も Evans & Sladen による分類方法では、すべてアメリカコハクチョウに分類された。

また、別の1代目交雑個体が、Penyface 型のコハクチョウとつがいになり3羽の幼鳥をつれて渡来したが、これらの2代目交雑個体のくちばしの模様も Evans & Sladen による分類方法では、す

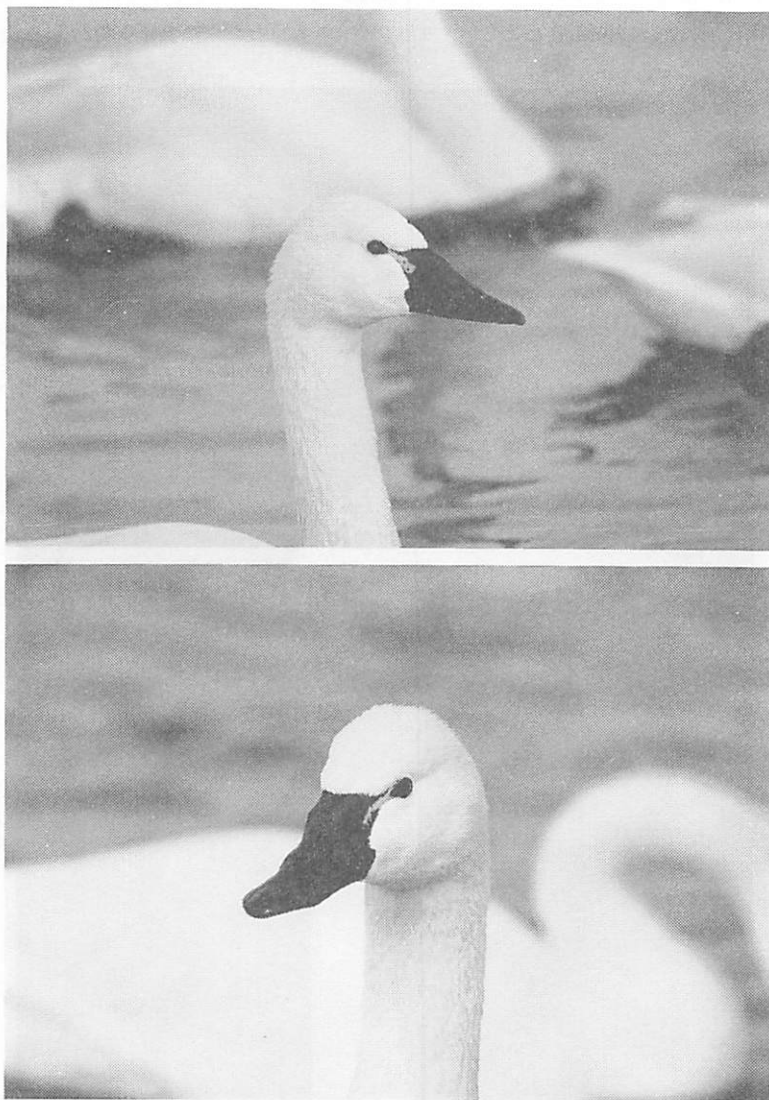


図3. 2代目交雑個体の嘴峰模様

Fig. 3. The bill pattern of second generation hybrid.

べてアメリカコハクチョウに分類された。

したがって、両親が判然していない場合、Evans & Sladen による分類法ではアメリカコハクチョウとアメリカコハクチョウとコハクチョウの交雑個体の明確な識別をすることはできないこと、そして交雑個体のなかにはアメリカコハクチョウとほとんど同じくちばしの模様を持つものすらいるということが明らかになった。もし、今後交雑個体の数が増加してくると、コハクチョウの亜種の分類上問題になってくると考えられる。

引用文献

- Evans, M.E. 1977. Recognising individual Bewick's Swans by bill pattern. *Wildfowl* 28 : 153 - 158.
- Evans, M.E. & Kear, J. 1978. Weights and measurements of Bewick's Swans during winter. *Wildfowl* 29 : 118 - 122.
- Evans, M.E. & Sladen W.J.L. 1980. A comparative analysis of the bill markings of Whistling and Bewick's Swans and out-of-range occurrences of the two taxa. *Auk* 97 : 697 - 703.
- Howard, R. & Moore, A. 1984. A complete checklist of the birds of the world. Macmillan London, London.
- Madge, S. & Burn, H. 1988. *Wildfowl*. Christopher Helm, London.
- 松井繁・八木博. 1988. アメリカコハクチョウについて. 日本の白鳥 (14) : 89 - 96.
- Mikami, S. 1989. First Japanese records of crowwew between Whistling *Cygnus columbianus columbianus* and Bewick's Swan *C.c. bewickii*. *Wildfowl* 40 : 131 - 133.
- 村瀬正夫. 1990. アメリカコハクチョウとコハクチョウの雑種の嘴峰の黄色斑について. 日本の白鳥 (16) : 12 - 19.
- 村瀬美江. 1990. アメリカコハクチョウとコハクチョウのつがいおよび家族群の連続越冬記録. *Strix* 9 : 213 - 217.
- 村瀬美江. 1991. アメリカコハクチョウとコハクチョウのつがいおよび家族群の連続越冬記録 一第2報一. *Strix* 10 : 274 - 279.
- 村瀬美江. 1992. アメリカコハクチョウとコハクチョウのつがいおよび家族群の連続越冬記録 一第3報一. *Strix* 11 : 245 - 251.
- 村瀬美江. 1993. アメリカコハクチョウとコハクチョウのつがいおよび家族群の連続越冬記録 一第3報一. *Strix* 12 : 115 - 119.

On the appearance of the bill pattern of the sub-species hybrid between Whistling and Bewick's Swans

Yoshie Murase

2-2-7 Tokiwadai, Kitakami-shi, Iwate 024

A "mated" pair of female Bewick's Swan *Cygnus columbianus bewickii* and male

Whistling Swan *C.c. columbianus* have migrated with their juveniles to Kitakami-city, Iwate Prefecture, every year since 1987. They visited this place with 24 first generation hybrids for seven years. One of these hybrids mated with a female Whistling Swan and visited with 3 second generation hybrids. One of these hybrids had a bill pattern similar to that of his mother, a female Whistling Swan.

Key words: bill pattern, Cygnus columbianus bewickii, C.c. columbianus, subspecies hybrid, swans